

例年に比べ小幅の異動でした。教職員の在職年数は、2.7年(昨は2.4年、一昨は1.9年)になりました。新しい仲間とともに、勢いのある学校、満足感を味わえる学校を創っていききたいものです。

◇修業式(3月24日<客って偉いのか>)

春休みに入ると、デパートやスーパー、レストランなどに、出かけることも多くなると思います。買い物や食事をして、店を出る時、店の人から、「ありがとうございます」とか、「またお越してください」といった言葉をかけられると思いますが、皆さんは、この時、どう対応しますか。

品物を買ってやったのだから礼を言われるのは当たり前、食べてやったのだから当たり前と思いますか。そして、何の応答もせず無愛想に店を出ますか。どうでしょうか。

ドイツで長いこと生活した女性が話したことですが、ドイツでは、デパートなどで買い物をした時、品物を受け取ると、客が「ありがとう」と店員さんにお礼を言うとのことでした。欲しいものを買うことができた。だから、「ありがとう」なのだそうです。そう考えると、その方が自然な感じがします。

店の人の丁寧な対応に、横柄な態度をとる客がいます。そういう人を見ると、とても嫌な気分になります。私は、そのような人間になりたくないで、店を出る時は、「ありがとうございました」、「ごちそうさまでした」、「お世話になりました」といった言葉を返すようにしています。皆さんにも実践してほしいと思います。実践している人も多いと思いますが。

◇教育でしか救えない

「親や教師の言うことはきちんと聞く」べきかどうかを、中高生に調査し、国際比較でもしたら、かなり悪い結果が出るのではないかと思います。ついでに家族を大切に思っているかの調査をしたら、これまた悪い結果が出るのではないかと思います。家庭内の問題の悲惨な結末や対教師暴力などが報じられる現状からすれば、調査など必要ないかもしれません。

学校が親や家族のことで、生徒を指導することはほとんどありません。無責任や不作法、思いやりのない行動を厳しく指導することはあっても、親の言うことを聞き、家族を大切にすると意図をもった指導(道徳の授業を除く)は、その機会が少ないようです。足利市の中学生訪米団としての訪米や何回かの訪台で、アメリカ人や台湾人が家族をととても大切にしているのを実感しました。韓国人に日本の現状などで話を向けると、「わが国はそんな(親や教師の言うことを聞かない、家族を大切にしない子どもができるような)教育はしていない」と一蹴されたとのことです。教育の基本は家庭であり、家庭教育のあり方が問われるようになってきました。学校もこの点を十分に踏まえた教育が必要でしょう。

家庭でも、学習や生活といったことの他に、教師の言うことはきちんと聞き、敬うような働きかけが特に必要な時代になったと思います。この国の行く末を案ずる声も多くなりましたが、教育でしか解決の道はないと考えています。

◇果樹を植えました

果樹(柿、りんご、梨、枇杷など)を植えました。学校は地域の方々にお世話になるばかりですが、花も実も楽しんでいただくなど、少しは役に立ちたいものです。また、果樹ならば、樹木に興味のなかった生徒にも、関心をもってもらえるかもしれません。果実の活用は、将来の人たちにお任せすることですが、今後も少しずつ増やしていこうと考えています。

◇始業式(4月8日<姿勢>)

私は皆さんくらいの時、姿勢がとても悪かったと思います。今でも良いとは言えませんが、当時に比べたら随分改善したと考えています。

剣道では、姿勢はとても大切です。昇段審査では、相手をどんなに打っても落ちてしまいます。背筋を伸ばして胸を張り、あごを引いて頭の芯が天を突くように立ち、両足のつま先はまっすぐ前に向けるのですが、私はそれができていなかったのです。「練習の時だけ姿勢を正してもだめだ。日頃の立ち姿、歩く姿から直すように」と、高校時代、先輩から助言されたのでした。そこで私は、校舎などですれ違った時に、姿勢が悪いと感じたら、その都度注意をしてもらえるよう先輩に頼みました。先輩は快く引き受けてくれました。行き会う度に、最初は何度も注意されましたが、そのうち回数が減っていきました。

西中学校は、足利はもちろん、県内公立中166校の頂点に立つ学校を目指しています。県下の学校の生徒は、格好が良くなくてはならないと思います。背筋を伸ばして胸を張り、あごを引いて頭の芯が天を突くように立って歩けば、皆さんの立ち姿、歩く姿は、フィギュアスケートやシンクロの選手のように一層美しくなるのではないかと思います。

◇学校教育と家庭教育

学校は家庭の領域にまで踏み込むべきではない、と考えている人は少なくないと思います。その方がはるかに楽ですし、できればそうありたいと思いますが、単純に割り切れないのが教育ではないでしょうか。

家庭の悩みをしっかりと携えて登校する生徒を、家庭の問題と取り合わなければ、いつまでも悩みを抱えて生活することにもなります。したがって、子どもの成長のためには、学校も家庭も互いにできるところをしっかりとやり、補完し合えるところは補完していくことが必要です。

子どもを育てるのは、保護者の励みであり喜びでもあります。我々もそれが仕事であり、生きがいであり使命でもあります。したがって、同じ立場で連携していくことが大切です。学校教育と家庭教育を厳密に分離することはできません。

◇同僚の評価が重要

人の評価をその人の周囲の10人が行えば、数名が肯定的評価を、同じく数名が否定的評価を、大半は可もなく不可もなくというのが普通の人の評価と考えています。ほとんどの人に良い評価をされる人は稀ですが、その逆も稀でしょう。教職員としての評価は、普通であればそれで十分と考えています。精神疾患による休職者が激増している現状を考えると、頑張り過ぎ、無理のし過ぎは危険です。

教職員の評価では、同僚の評価は管理職より厳しく確かなことも多い。したがって、非常に重要であると考えています。年齢や経験にとらわれることなく、また、男性優先でもなく、同僚の評価を重視して処遇が考えられるようになったら、教育界の様相は大きく変わっていくことでしょう。

「楽をしよう、得をしよう、いい思いをしよう」と行動しても、そんな欲求を叶えることはできないと思います。自分以外の人がそうなるように行動したなら、多くの人に評価され、信頼されるようになります。そして、結果として、「楽も得もいい思い」もできるようになるでしょう。